

## 目次

1	はじめに.....	1
2	研究業績.....	2
	(1) 原著・報告.....	2
	(2) 解説.....	4
	(3) 著書.....	6
	(4) 報告書.....	7
	(5) シンポジウム・セミナー等.....	7
	(6) 学会発表.....	9
	(7) 講演等.....	13
	(8) その他.....	15
	(9) 受賞.....	16
	(10) 国際交流.....	17
3	研究活動.....	18
	(1) 抄読会.....	18
	(2) 研究会.....	23
	(3) 研究プロジェクト.....	25
	(4) 教室内勉強会.....	28
4	教育活動.....	32
	(1) 学部講義.....	32
	(2) 学部実習.....	34
	(3) 大学院特論.....	35
	(4) 卒業論文.....	36
	(5) 修士論文.....	36
5	学内での活動.....	37
	(1) 委員会活動.....	37
	(2) 教室内での役割分担.....	37
6	学会における活動.....	38
7	社会的活動.....	39
8	教室日誌.....	40
9	教室員名簿(2013年度).....	41

## 1 はじめに

平成 25 年度は、平成 24 年 12 月に永田智子が教室主任を拝命した後の初めての 1 年間でした。成瀬昂助教・蔭山正子助教に加えて、平成 25 年 4 月からは、老年看護学教室の飯坂真司助教が当教室の兼担となり、教育活動を一緒に進めることができました。平成 26 年 3 月には無事、修士課程 1 名、卒論生 1 名が学位を得ました。皆様のご支援のおかげと、心より感謝申し上げます。

平成 25 年夏に、本学健康科学・看護学専攻修士課程に保健師・助産師の養成課程を設置することが承認され、平成 26 年 4 月から大学院での保健師・助産師教育がスタートします。多くの方々のご尽力の結果として、この新しい一歩が踏み出せることに、改めて感謝申し上げます。本学の看護学大学院教育では、高度の専門性・科学性を付与し、問題解決力を強化した看護学研究者の育成を目指しています。私どもは、研究能力と実践能力を併せ持つ保健師の育成に向け、尽力していきたいと存じます。

教室の新しい取り組みとしては、福井県のレセプト研究への参画が挙げられます。本学高齢社会総合研究機構による福井県との協定に基づく研究に新たに参加し、医療保険・介護保険・特定健診等の突合データを扱って、サービスの効果検証等に取り組んでいます。大規模な行政データという特色を生かした解析を行うと共に、生活実態等を踏まえた解釈を行うべく、現地視察なども度々行っています。今後も、教室内外の多方面からのご支援を頂きながら、有意義な成果を出すべく努めてまいります。

東日本大震災の被災地である岩手県大槌町での、住民の精神的健康や介護予防に関する研究や活動も継続しています。町の方々と共に作成した「大槌びんころ体操」は、介護予防活動や住民間の交流促進に役立ち始めているようです。

その他、母子保健領域や保健師活動に関する研究、精神障害者の家族に関する研究、退院支援や専門職間の連携に関する研究等も行っています。

今年度は、コロラド大学の **Kathy Magilvy** 先生に研究指導を受けたり、イリノイ大学の **Mi Ja Kim** 先生のご講演をお手伝いしたりと、海外の先生方にご教示いただく機会にも恵まれました。これを機に、海外との交流もさらに深めていきたいと思えます。

ここに平成 25 年度の活動報告をまとめました。教室員一同、今後も研究と教育に邁進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成 26 年 4 月

東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻  
地域看護学分野 准教授 永田智子

## 2 研究業績

### (1) 原著・報告

Satoko Nagata, Atsuko Taguchi, Takashi Naruse, Yuki Kuwahara, Sachiyo Murashima.

Unmet needs for visiting nurse services among older people after hospital discharge and related factors in Japan: Cross-sectional survey.

Japan Journal of Nursing Science, 10(2), 242–254, 2013.

Takashi Naruse, Mahiro Sakai, Izumi Watai, Atsuko Taguchi, Yuki Kuwahara, Satoko Nagata, Sachiyo Murashima.

Individual and organizational factors related to work engagement among home-visiting nurses in Japan.

Japan Journal of Nursing Science, 10(2), 267–272, 2013.

Mahiro Sakai, Takashi Naruse, Satoko Nagata

Home visiting nurses' attitudes toward caring for dying patients and related workplace factors: a cross-sectional study

International Journal of Palliative Nursing, 19(4), 195-204, 2013.

Yuki Kuwahara, Satoko Nagata, Atsuko Taguchi, Takashi Naruse, Hiroyuki Kawaguchi, Sachiyo Murashima.

Measuring the efficiencies of visiting nurse service agencies using data envelopment analysis.

Health Care Management Science, 16(3), 228–235, 2013.

Atsuko Taguchi, Takashi Naruse, Yuki Kuwahara, Satoko Nagata Sachiyo Murashima.

Home visiting nurse agencies for community dwelling elderly at nighttime in Japan.

Home Health Care Management & Practice, 25(6), 256–263, 2013.

Takashi Naruse, Atsuko Taguchi, Yuki Kuwahara, Satoko Nagata, Marhiro Sakai, Izumi Watai, Sachiyo Murashima.

The effect of skill mix with non-nursing assistant on work engagement among home visiting nurses in Japan.

The Journal of Nursing Management, (DOI: 10.1111/jonm.12167), 2014(in press).

Satoko Nagata, Chie Teramoto, Reiko Okamoto, Ruriko Suzuki, Keiko Koide, Masumi Nishida, Michie Nomura, Toshiko Tada, Emiko Kishi, Yoko Sakai, Noriko Jojima, Emiko Kusano, Saori Iwamoto, Miki Saito, Sachiyo Murashima.

Tsunami impact on mortality: A town severely damaged by the Great East Japan Earthquake on 11 March 2011.

Disaster, 2014(in press).

Satoko Nagata, Atsushi Matsunaga, Chie Teramoto

Follow-up study of the general and mental health of people living in temporary housing at 10 and 20 months after the Great East Japan Earthquake.

Japan Journal of Nursing Science, 2014(in press).

Atsuko Taguchi, Takashi Naruse, Yuki Kuwahara, Satoko Nagata, Sachiyo Murashima.

Identification of the need for home visiting nurse: development of a new assessment tool.

International Journal for Integrated Care, 2014 (in press).

蔭山正子, 田口敦子.

精神障がいをもつ母親への保健師による育児支援技術—病状と育児のバランスを図る.

日本地域看護学会誌, 16(2), 47-54, 2013.

成瀬昂, 田口敦子, 永田智子, 桑原雄樹, 村嶋幸代.

居宅介護支援専門員によって同一日に訪問サービスを頻回に必要と判断される要介護者の発現率と対象像の明確化.

日本公衆衛生雑誌, 60(6), 370-376, 2013.

坂田祥, 成瀬昂, 田口敦子, 村嶋幸代.  
幼児をもつ母親の育児困難感と子どもの行動特性.  
日本公衆衛生雑誌, 61(1), 3-15, 2014.

堀越直子, 桑原雄樹, 田口敦子, 永田智子, 村嶋幸代.  
離島で暮らす高齢者の在宅療養・死亡場所にかかわる特徴 入院施設の有無に着目して.  
日本公衆衛生雑誌, 60(7), 412-421, 2013.

堀越直子, 桑原雄樹, 田口敦子, 小澤卓, 永田智子, 村嶋幸代.  
離島地域における医療・福祉サービスと島内での看取りとの関連.  
厚生指針, 60(6), 9-14, 2013.

蔭山正子, 横山恵子, 中村由嘉子, 大嶋巖.  
精神障がい者の家族ピア教育プログラムの普及:「家族による家族学習会」のケーススタディ.  
日本公衆衛生雑誌, (印刷中). 2014.

## (2) 解説

永田智子, 成瀬昂, 鈴木美穂, 阪井万裕, 柳瀬裕貴, 小暮かおり.  
キーワードは「連続性」Health Promoting Hospital を基盤にしたタイ・コンケン地方の保健医療システム.  
保健師ジャーナル, 69(8), 620-625, 2013.

蔭山正子, 飯塚壽美, 小林清香, 横山恵子.  
精神障がい者の家族を支える家族ピア教育プログラム<第1報>必要とされる背景とプログラムの概要.  
コミュニティケア, 15(4), 65-67, 2013.

蔭山正子.  
家族のリカバリーとは.  
こころの元気+, 7(9), 13, 2013.

蔭山正子.  
家族支援.  
精神科臨床サービス, 13(2), 162-163, 2013.

蔭山正子.  
みんなねっと (家族会) .  
精神科臨床サービス, 13(2), 176-177, 2013.

蔭山正子, 横山恵子, 小林清香, 飯塚壽美.  
精神障がい者家族のリカバリーを支える家族ピア教育プログラム.  
家族看護, 12(1), 148-152, 2014.

松永篤志, 永田智子.  
臨床に役立つ Q&A 5. まちづくりとして介護予防に取り組むにはどうしたらよい  
でしょうか.  
Geriatric Medicine, 52(1), 85-87, 2014.

齋藤あや.  
ワクチンの教育～特に妊婦への教育について～.  
医薬ジャーナル, 49(7), 117-122, 2013.

齋藤あや.  
米国における地域看護職の予防接種の取り組み.  
保健師ジャーナル, 70(2), 99-104, 2014.

横山恵子, 飯塚壽美, 小林清香, 蔭山正子.  
精神障がい者の家族を支える家族ピア教育プログラム<第2報>「家族による家  
族学習会」の実際と今後の可能性.  
コミュニティケア, 16(1), 66-69, 2014.

### (3) 著書

永田智子, 成瀬昂 (分担執筆).

在宅の高齢者を支える—医療・介護・看取り—Advances in Aging and Health Research 2013. 東京：公益財団法人長寿科学振興財団, 2014.

#### 3.各論 2)地域における看護・介護

(1)24時間訪問看護・介護体制の在り方. 村嶋幸代, 成瀬昂, 田口敦子. 59-70,

(2)地域特性に応じた在宅医療ケアシステムの構築—福岡県の実践例とPDCA サイクル実践ツールの開発. 田口敦子, 永田智子, 村嶋幸代. 71-80.

永田智子 (分担執筆).

公衆衛生看護学テキスト 1「公衆衛生看護学言論」(麻原きよみ：責任編集, 編集：佐伯和子, 岡本玲子, 荒木田美香子). 東京：医歯薬出版株式会社, 2014.

#### 第2章 公衆衛生看護の対象

1.健康の社会的決定要因. 15-23,

2.健康の環境的決定要因. 24-34.

蔭山正子, 大嶋巖, 横山恵子, 桶谷肇, 二宮史織, 仁科雄介.

家族学習会の特徴と効果. 千葉：地域精神保健福祉機構, 2013.

地域精神保健福祉機構編. 家族による家族学習会ガイド—精神障害をもつ方の家族のために—. 31-46.

中村由嘉子, 二宮史織, 桶谷肇, 小林清香, 蔭山正子, 横山恵子, 高森信子, 天川智子, 伊藤順一郎, 大嶋巖.

家族による家族学習会の紹介. 千葉：地域精神保健福祉機構, 2013.

地域精神保健福祉機構編. 家族による家族学習会ガイド—精神障害をもつ方の家族のために—. 5-17.

成瀬昂, , 阪井万裕 (共同翻訳者) .

アーノルド・B・バッカー , マイケル・P・ライター編集, 井上 彰臣, 大塚 泰正, 島津 明人, 種市 康太郎翻訳,

ワーク・エンゲイジメント —基本理論と研究のためのハンドブック—.

東京：(株)星和書店, 2014.

#### (4) 報告書

永田智子，辻哲夫，飯島勝矢，吉江悟，山本則子，五十嵐歩，石崎達郎，村山洋史，成瀬昂，岩本康志，両角良子，湯田道生，阪井万裕，松本博成，寺本千恵，櫻井美里，伊藤翠，錦織梨紗，山本なつ紀。

平成 25 年度厚生労働省労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業。

「レセプトデータを活用した療養場所移行とサービス利用の追跡調査に基づく効果的な地域連携体制の明確化」。

平成 25 年度総合研究報告書，2014。

成瀬昂，辻哲夫，飯島勝矢，吉江悟，永田智子，蔭山正子，岩本康志，両角良子，湯田道生，阪井万裕，松本博成，寺本千恵，櫻井美里，伊藤翠，錦織梨紗，山本なつ紀。

平成 25 年度厚生労働省労働科学研究費補助金 政策科学総合研究事業。

「縦断的レセプトデータを用いた医療・介護サービス利用状況の地域間比較」。

平成 25 年度総括研究報告書，2014。

#### (5) シンポジウム・セミナー等

蔭山正子（座長），横山恵子，小林清香，飯塚壽美，藤原里美。

地域で精神障がい者の家族をどう支援できるかー米国・アジア諸国そして日本で広がる家族ピア教育プログラム。

第 16 回日本地域看護学会学術集会ワークショップ，徳島県 ホテルクレメント徳島，2013 年 8 月 3 日-4 日。

五十嵐千代，村嶋幸代，岸恵美子，岡本玲子，鈴木るり子，山口佳子，永田智子。

保健師教育大学院モデルカリキュラムを考える。

第 16 回日本地域看護学会学術集会ワークショップ，徳島県 ホテルクレメント徳島，2013 年 8 月 3 日-4 日。

五十嵐千代，永田智子（コーディネーター）。

動きだした保健師課程選択制～教育の質保証と今後の方向性を考える～。

全国保健師教育機関協議会秋季研修会，三重県 津センターパレスホール，2013 年 10 月 22 日。

永田智子, 成瀬昂 (パネリスト).

山本則子, 永田智子, 成瀬昂, 西垣昌和, 鈴木美穂, 田中真琴, 佐藤美穂子, 長江弘子, 本田彰子, 福井小紀子, 山田雅子, 深堀浩樹, 松浦志野, 上野桂子.

交流集会「超高齢社会を踏まえた医療体制の見直しに対応する看護教育の在り方 社会のニーズにこたえられる看護学教育とは」.

第 33 回日本看護科学学会学術集会, 大阪府 大阪国際会議場, 2013 年 12 月 6 日-7 日.

永田智子 (発題者).

ケア・サポート・システムについて

「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム」キックオフ・シンポジウム<白熱討論!! 活力ある超高齢社会へのロードマップ—2030/2060>.

東京都 東京大学工学部 11 号館, 2013 年 12 月 14 日.

永田智子 (指定発言)

五十嵐千代, 掛本知里, 田中祐子, 濱野芳江, 中板育美, 永田智子, 岸恵美子, 村嶋幸代.

ワークショップ「公衆衛生看護の国際動向からみた保健師基礎教育のあり方～大学院モデルカリキュラムを考える～」.

第 2 回日本公衆衛生看護学会学術総会, 神奈川県 国際医療福祉大学小田原保健医療学部, 2014 年 1 月 12 日-13 日.

永田智子, 松本博成.

ジェロントロジー共同研究中間報告および意見交換会

「医療・介護サービスの利用状況とその背景要因の探索 (初年度報告)」. 福井県 AOSSA, 2014 年 3 月 20 日.

成瀬昂

ジェロントロジー共同研究中間報告および意見交換会

「住民の慢性疾患の発生状況と生活習慣の地域間比較 (初年度報告)」. 福井県 AOSSA, 2014 年 3 月 20 日.

(6) 学会発表

横山恵子, 蔭山正子.

統合失調症の「家族による家族学習会」が精神障がい者家族会に与える影響.  
第 23 回日本精神保健看護学会学術集会, 京都府 京都テルサ, 2013 年 6 月  
15 日-16 日.

蔭山正子, 横山恵子.

精神障がい者家族による家族ピア教育プログラム「家族による家族学習会」  
の質的検討—中心的な家族が考える核となるプログラム要素.  
第 16 回日本地域看護学会学術集会, 徳島県 ホテルクレメント徳島, 2013  
年 8 月 3 日-4 日.

寺本千恵, 松永篤志, 永田智子.

東日本大震災 10 か月後の仮設住宅住民のソーシャル・サポートと心理的ストレ  
スの関連.  
第 16 回日本地域看護学会学術集会, 徳島県 ホテルクレメント徳島, 2013  
年 8 月 3 日-4 日.

戸村ひかり, 永田智子, 村嶋幸代, 成瀬昂.

退院支援看護師の実践能力と関連要因の検討—全国調査の結果より—.  
第 16 回日本地域看護学会学術集会, 徳島県 ホテルクレメント徳島, 2013  
年 8 月 3 日-4 日.

堂本司, 武村雪絵, 永田智子.

退院調整部署の無い病院における退院支援スクリーニング票及び退院支援カ  
ンファレンスの効果.  
第 17 回日本看護管理学会学術集会, 東京都 東京ビックサイト, 2013 年 8  
月 24 日-25 日.

戸村ひかり, 永田智子, 村嶋幸代.

全国の病院における看護師の退院支援の実践状況—「退院支援看護師」と「退  
院支援担当の病棟看護師」との比較—.  
第 51 回日本医療・病院管理学会学術総会, 京都府 京都大学, 2013 年 9 月  
27 日-28 日.

戸村ひかり，永田智子，村嶋幸代.

退院支援看護師と退院支援担当の病棟看護師による実践能力向上のための取り組み.

第 23 回日本保健科学学会，東京都 首都大学東京 荒川キャンパス，2013 年 10 月 7 日.

永田智子，松永篤志，寺本千恵，新雅史.

仮設住宅住民の震災 10 か月後と 20 か月後の追跡調査 1—属性と主観的・精神的健康—.

第 72 回日本公衆衛生学会総会，三重県 三重県総合文化センター，2013 年 10 月 23 日-25 日.

寺本千恵，松永篤志，新雅史，永田智子.

仮設住宅住民の震災 10 か月後と 20 か月後の追跡調査 2—団地内友人との交流—.

第 72 回日本公衆衛生学会総会，三重県 三重県総合文化センター，2013 年 10 月 23 日-25 日.

松永篤志，寺本千恵，新雅史，永田智子.

仮設住宅住民の震災 10 か月後と 20 か月後の追跡調査 3—外出状況と精神的健康—.

第 72 回日本公衆衛生学会総会，三重県 三重県総合文化センター，2013 年 10 月 23 日-25 日.

阪井万裕，成瀬昂，永田智子.

訪問看護師の在宅終末期ケアにおける協同職種との関係性.

第 72 回日本公衆衛生学会総会，三重県 三重県総合文化センター，2013 年 10 月 23 日-25 日.

有本梓，岩崎りほ，村嶋幸代，田高悦子.

1 歳 6 か月児の母親における保健師への相談の状況および相談の有無による特徴の比較.

第 72 回日本公衆衛生学会総会，三重県 三重県総合文化センター，2013 年 10 月 23 日-25 日.

Mahiro Sakai, Takashi Naruse, Satoko Nagata.

Work engagement relates to nurses' attitudes toward caring for dying patients and the families among home visiting nurses (Poster presentation).

The 141st American Public Health Association Annual Meeting, the United States of America, Boston, November 2-6, 2013.

永田智子, 寺本千恵, 松永篤志.

仮設住宅住民の震災 10 ヶ月後と 20 ヶ月後の追跡調査 孤立感の変化および個人属性・団地内の交流の影響.

第 33 回日本看護科学学会学術集会, 大阪府 大阪国際会議場, 2013 年 12 月 6 日-7 日.

松永篤志, 寺本千恵, 永田智子.

仮設住宅住民の震災 10 ヶ月後と 20 ヶ月後の追跡調査 外出状況の変化に影響する要因.

第 33 回日本看護科学学会学術集会, 大阪府 大阪国際会議場, 2013 年 12 月 6 日-7 日.

山本則子, 永田智子, 成瀬昂, 西垣昌和, 鈴木美穂, 田中真琴, 佐藤美穂子, 長江弘子, 本田彰子, 福井小紀子, 山田雅子, 深堀浩樹, 松浦志野, 上野桂子.

在宅終末期ケア教育に関する全国看護系大学実態調査 シラバスからの検討.  
第 33 回日本看護科学学会学術集会, 大阪府 大阪国際会議場, 2013 年 12 月 6 日-7 日.

蔭山正子, 成瀬昂, 永田智子. (優秀ポスター賞)

GIS (地理情報システム) を活用した地域アセスメント演習の試み.

第 2 回日本公衆衛生看護学会学術総会, 神奈川県 国際医療福祉大学小田原保健医療学部, 2014 年 1 月 12 日-13 日.

永田智子, 小川薫子, 田口敦子, 成瀬昂, 村嶋幸代.

滋賀県草津市での「訪問看護利用支援試行事業」が退院後の訪問看護利用に与えた影響.

第 2 回日本公衆衛生看護学会学術総会, 神奈川県, 国際医療福祉大学小田原保健医療学部, 2014 年 1 月 12 日-13 日.

松永篤志, 寺本千恵, 永田智子.

東日本大震災被災地における同じ地区内の仮設住宅住民と自宅生活住民の精神的健康.

第2回日本公衆衛生看護学会学術総会, 神奈川県, 国際医療福祉大学小田原保健医療学部, 2014年1月12日-13日.

Misato Sakurai, Satoko Nagata.

Public health nurses' support for mothers with infants in the neonatal intensive care unit: factors related to support during hospitalization.

The 17th East Asian Faculty of Nursing Sciences. Philippines, Manila. Century Park Hotel, February 20-21, 2014.

Natsuki Yamamoto, Riho Iwasaki, Takashi Naruse, Satoko Nagata.

Relationships between the number of rearing children and state-anxiety among Japanese mothers living in metropolitan area.

The 17th East Asian Faculty of Nursing Sciences. Philippines, Manila. Century Park Hotel, February 20-21, 2014.

Ayumi Igarashi, Hiroki Fukahori, Mahiro Sakai, Noriko Yamamoto-Mitani. Geriatric nursing perspective of health care system issues in Japan (Oral presentation).

The 17th East Asian Faculty Of Nursing Sciences. Philippines, Manila. Century Park Hotel, February 20-21, 2014.

伊藤翠, 錦織梨紗, 永田智子, 戸村ひかり.

訪問看護ステーション実習が病棟看護師の退院支援実施状況にもたらす効果.

第18回日本在宅ケア学会学術集会, 東京都 一橋大学一橋講堂, 2014年3月15日-16日.

錦織梨紗, 伊藤翠, 永田智子, 戸村ひかり.

退院支援係を有する病院の特徴と病棟看護師の退院支援への取り組みに及ぼす効果.

第18回日本在宅ケア学会学術集会, 東京都 一橋大学一橋講堂, 2014年3月15日-16日.

(7) 講演等

成瀬昂, 阪井万裕.

The challenges of fostering comprehensive home care system in Japan.

Academic Exchange Meeting between USM Health Campus and the University of Tokyo.

東京都 東京大学医学部 3 号館 S101、2013 年 4 月 3 日.

小暮かおり, 阪井万裕.

EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholars)に参加して学んだこと～参加準備から今後の展望まで～.

東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻成人看護学/緩和ケア看護学分野主催ブラウンバッグセミナー.

東京都 東京大学医学部 5 号館汎用実習室, 2013 年 4 月 19 日.

松永篤志 (講師).

大槌びんころ体操指導.

平成 25 年度大槌町さわやかウォーキングの会 定期総会.

岩手県 大槌町城山体育館, 2013 年 4 月 30 日.

永田智子, 成瀬昂.

キーワードは「連続性」タイ・コンケン地方の保健医療システム.

東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻成人看護学/緩和ケア看護学分野主催ブラウンバッグセミナー.

東京都 東京大学医学部 5 号館汎用実習室, 2013 年 5 月 10 日.

永田智子 (非常勤講師)

地域看護管理方法 I 「退院支援と医療機関における地域連携体制の構築の実際」自治医科大学大学院看護学研究科授業.

東京都 東京大学地域看護学教室・東京大学医学部附属病院, 2013 年 5 月 29 日.

松永篤志 (講師).

大槌びんころ体操指導

チャレンジデー2013.

岩手県 大槌町役場多目的会議室, 2013 年 5 月 29 日.

永田智子（非常勤講師）

地域看護援助展開論「在宅ケアの成り立ちと現状、看護サービスの展開方法」

地域看護学方法論「在宅ケアシステムの現状」

新潟県立看護大学大学院授業。

東京都 東京大学地域看護学教室・東京大学医学部附属病院, 2013年9月12日。

岩崎りほ（講師）。

ホームスタートビジター養成講座「傾聴の意義と方法」

NPO 法人ワーカー図・コレクティブちろりん村

東京都 西東京市障害者総合支援センター, 2013年10月1日。

蔭山正子（講師）。

地域看護学2 精神保健福祉活動の実際（患者・家族支援）

東京都 武蔵野大学看護学部3年授業, 2013年10月8日。

成瀬昂（講師）。

宮崎市ケアマネ連絡協議会研修会

地域包括ケア～なんだ、地域包括ケアってそういうことだったのか！ケアマネジメンツの再発見～。

宮崎県 宮崎市役所, 2013年10月18日。

成瀬昂（講師）。

北区ナーシングヘルスケアネット

第4回交流会「連携について」（主催：北区ナーシングヘルスケアネット事務局）。

東京都 北とびあ, 2013年10月18日。

永田智子（講師）。

療養場所の円滑な移行に向けた退院支援方策の開発とその評価

第15回看護国際フォーラム「在宅ケアの推進とその方略—臨床・退院支援・地域における看護の連携」（主催：大分県立看護科学大学）。

大分県 別府ビーコンプラザ 国際会議場, 2013年10月26日。

永田智子（講師）。

臨床現場における退院支援のための人材育成の方略  
自治医科大学大学院フォローアップ研修会，  
栃木県 自治医科大学大学院，2013年11月9日。

齋藤あや（講師）。

「ワクチン接種向上に向けた課題」  
千葉市医師会 予防接種講習会。  
千葉県 千葉市総合保健医療センター，2013年11月27日。

成瀬昂（講師）

平成25年度介護従事者現任研修  
「連携は気持ちのよい情報交換から」。  
宮崎県 宮崎市民文化ホール，2014年3月11日

#### (8) その他

松永篤志。

ラジオ出演 大槌ぴんころ体操紹介。  
おおつちさいがいエフエム，まいにちおおつち。  
岩手県大槌町，2013年7月1日。

松永篤志。

インタビュー なじみの曲で介護予防を。  
河北新聞 26面 ワイド東北，2013年7月10日。

阪井万裕。

チームのチカラでいきいきと！～チームがエンゲイジすると生産性がUP～。  
健康いきいき職場づくりフォーラム事例・研究トピックス10月号コラム執筆，  
掲載 Web page（限定公開）：

[http://www.ikiiki-wp.jp/topics/topics\\_detail/tabid/76/wid/36/Default.aspx](http://www.ikiiki-wp.jp/topics/topics_detail/tabid/76/wid/36/Default.aspx)  
2013年10月1日。

成瀬昂.

職場の人間関係のポイントは、気持ちの良い情報共有と心地よい距離感。  
健康いきいき職場づくりフォーラム事例・研究トピックス 12月号コラム執筆,  
掲載 Web page (限定公開) :

[http://www.ikiiki-wp.jp/topics/topics\\_detail/tabid/76/wid/42/Default.aspx](http://www.ikiiki-wp.jp/topics/topics_detail/tabid/76/wid/42/Default.aspx)

2013年12月1日.

永田智子

Book Review 「医療福祉をつなぐ関連職種連携：講義と実習にもとづく学習のすべて」.

日本在宅ケア学会誌第17巻2号, 2014.

#### (9) 受賞

松本博成.

卒業論文 学科奨励賞受賞.

中年期成人の要介護状態を想定したときの転居意向とその関連要因.

石塚裕美子, 永田智子, 戸村ひかり, 村嶋幸代.

2013年度日本地域看護学会 優秀論文賞.

内科病棟における循環器・呼吸器疾患を有する高齢患者の計画外再入院の分類と、再入院予防策の検討 (日本地域看護学会誌第14巻第2号掲載) .

蔭山正子, 成瀬昂, 永田智子.

第2回日本公衆衛生看護学会学術総会 優秀ポスター賞.

GIS (地理情報システム) を活用した地域アセスメント演習の試み.

(10) 国際交流

マレーシア理科大学医師・看護師との学術交流会（ホスト・プレゼンター：地域看護学教室）。

東京大学医学部 3 号館 2013 年 4 月 3 日。

Mi Ja Kim 博士（イリノイ大学）講演（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻主催、日本看護系大学協議会後援、地域看護学教室運営）

「Measuring Quality in Doctoral Education in Nursing: Focused on the International Comparative Study」。

東京大学医学部本館大講堂 2013 年 10 月 4 日。

Kathy Magilvy 博士（コロラド大学名誉教授）滞在（講演・研究ミーティング） 2013 年 11 月 17 日-21 日。

講演「Circles of Care and Fragmentation of Care Discovered through Ethnography」

東京大学医学部 5 号館 109 号室 2013 年 11 月 19 日。

Jang Soong-nang 博士（韓国中央大学校）滞在（講演・研究ミーティング） 2014 年 3 月 27-29 日。

講演「Cohort trends of health status and long term care needs among Korean older population」（地域看護学分野主催、東京大学リーディング大学院プログラム「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム」後援）

東京大学医学部 3 号館 N101 2014 年 3 月 28 日。

### 3 研究活動

#### (1) 抄読会

日程（毎週火曜日） 前期 2013/4/9～ 7/9, 後期 2013/9/17～ 2013/10/29

月 日	担 当	内 容
4 月 9 日	春名めぐみ 永田智子	抄読会オリエンテーション 母性看護学・助産学分野教室の研究の紹介 地域看護学教室での研究の紹介 ウェルカムランチ
4 月 16 日	キタ幸子  阪井万裕	Silverman JG, Decker MR, et al. Intimate partner violence around the time of pregnancy: association with breastfeeding behavior. <i>J Womens Health (Larchmt)</i> . 2006 Oct;15(8):934-40. (クリティーク 米澤) Smith R, Porock D. Caring for people dying at home: a research study into the needs of community nurses. <i>Int J Palliat Nurs</i> . 2009 Dec;15(12):601-8. (クリティーク 岩崎)
4 月 23 日	松永篤志  櫻井美里 日下桃子	van der Velden PG, van Loon P, et al. Mental health problems among search and rescue workers deployed in the Haïti earthquake 2010: a pre-post comparison. <i>Psychiatry Res</i> . 2012 Jun 30;198(1):100-5. (クリティーク 寺本) 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告
5 月 7 日	米澤かおり  南谷真理子 疋田直子	Lavender T, Bedwell C, et al. Randomized, controlled trial evaluating a baby wash product on skin barrier function in healthy, term neonates. <i>J Obstet Gynecol Neonatal Nurs</i> . 2013 Mar-Apr;42(2):203-14. (クリティーク 成瀬) 修士論文進捗報告 修士論文進捗報告

5月14日	蔭山正子	van Vugt MD, Kroon H, et al. Assertive community treatment in the Netherlands: outcome and model fidelity. <i>Can J Psychiatry</i> . 2011 Mar;56(3):154-60. (クリティーク 齋藤)
	阪井万裕	Ausserhofer D, Schubert M, et al. The association of patient safety climate and nurse-related organizational factors with selected patient outcomes: a cross-sectional survey. <i>Int J Nurs Stud</i> . 2013 Feb;50(2):240-52. (クリティーク 芦田)
5月21日	伊藤翠	Barclay JS, Kuchibhatla M, et al. Association of hospice patients' income and care level with place of death. <i>JAMA Intern Med</i> . 2013 Mar 25;173(6):450-6. (クリティーク 白石)
	寺本千恵	Barclay JS, Kuchibhatla M, et al. Association of hospice patients' income and care level with place of death. <i>JAMA Intern Med</i> . 2013 Mar 25;173(6):450-6. (クリティーク 白石)
5月28日	竹井春香	Burns E, Zobbi V, et al. Aromatherapy in childbirth: a pilot randomised controlled trial. <i>BJOG</i> . 2007 Jul;114(7):838-44. (クリティーク 春名)
	松本弘子	Jangsten E, Mattsson LÅ, et al. A comparison of active management and expectant management of the third stage of labour: a Swedish randomised controlled trial. <i>BJOG</i> . 2011 Feb;118(3):362-9. (クリティーク 松崎)
6月4日	山本なつ紀	Mendelson T, Leis JA, et al. Impact of preventive intervention for perinatal depression on mood regulation, social support, and coping. <i>Arch Womens Ment Health</i> 2013 Jun;16(3):211-8 (クリティーク 永田)
	齋藤あや	Anastasi D, Di Giuseppe G, et al. Paediatricians knowledge, attitudes, and practices regarding immunizations for infants in Italy. <i>BMC Public Health</i> 2009 Dec 14;9(9):463-9. (クリティーク 伊藤)

6月11日	錦織梨紗	Abad-Corpa E, Carrillo-Alcaraz A, et al. Evaluation of the effectiveness of hospital discharge planning and follow-up in the primary care of patients with chronic obstructive pulmonary disease. <i>Journal of Clinical Nursing</i> 2013 Mar;22(5-6):669-680. (クリティーク 蔭山)
	永田智子 成瀬昂	地域トピック：大規模×縦断データの分析研究～福井県医療・介護・特定健診データ分析
6月18日	竹形みずき	Tham V, Christensson K, et al. Sense of coherence and symptoms of post-traumatic stress after emergency caesarean section. <i>Informa Healthcare Acta Obstet Gynecol Scand.</i> 2007;86(9):1090-1096. (クリティーク 山本)
	岩崎りほ 竹形みずき	博士論文進捗報告 博士論文進捗報告
6月25日	成瀬昂	Cramm JM, Hoeijmakers M, et al. Relational coordination between community health nurses and other professionals in delivering care to community-dwelling frail people. <i>J Nurs Manag.</i> 2013 Feb 27. doi: 10.1111/jonm.12041. (クリティーク 竹井)
	芦田沙矢香	Yayi I, Nonaka D, et al. School-based participatory health education for malaria control in Ghana: engaging children as health messengers. <i>Malar J.</i> 2010 Apr 18(9):98-110. (クリティーク 松本)
7月2日	松崎政代	Ank de Jonge, Jeanette A J M Mesman, et al. Severe adverse maternal outcomes among low risk women with planned home versus hospital births in the Netherlands: nationwide cohort study. <i>BMJ</i> 2013; June 13 346:f3263. (クリティーク 錦織)
	キタ幸子 松永篤志	博士論文進捗報告 博士論文進捗報告
7月9日	白石三恵	Feldens CA, Vitolo MR, et al. Risk factors for discontinuing breastfeeding in southern Brazil: a survival analysis. <i>Matern Child Health J.</i> 2012 Aug;16(6):1257-1265. (クリティーク 芦田)
	春名めぐみ	母性・助産トピック：災害時における妊産婦・乳幼児への支援

9月17日	松本弘子	Wallace M, Saurel-Cubizolles MJ, et al. Returning to work one year after childbirth: data from the mother-child cohort EDEN. <i>Maternal Child Health Journal</i> . 2013 Oct; 17(8): 1432-40 (クリティーク 春名)
	齋藤あや	Smith PJ, Kennedy AM, et al. Association between health care providers' influence on parents who have concerns about vaccine safety and vaccination coverage. <i>Pediatrics</i> . 2006 Nov; 118(5): e1287-92. (クリティーク 阪井)
9月24日	竹井春香	Kanerva N, Kronholm E, et al. Tendency toward eveningness is associated with unhealthy dietary habits. <i>Cronobiology International</i> . 2012 Aug;29(7):920-7. (クリティーク 松崎)
	錦織梨紗	Ashbrook L, Mourad M. Communicating discharge instructions to patients: a survey of nurse, intern, and hospitalist practices. <i>Journal of Hospital Medicine</i> . 2013 Jan;8(1):36-41. (クリティーク 永田)
10月1日	伊藤翠	Alonso-Babarro A, Bruera E. Can this patient be discharged home? Factors associated with at-home death among patients with cancer. <i>Journal of Clinical Oncology</i> . 2011 Mar 20;29(9):1159-67. (クリティーク 寺本)
	山本なつ紀	Tough S, Tofflemire K. Factors influencing childbearing decisions and knowledge of perinatal risks among Canadian men and women. <i>Maternal Child Health Journal</i> . 2007 Mar;11(2):189-98. (クリティーク 竹形)
10月8日	白石三恵	Toledo E, Lopez-del Burgo C, et al. Dietary patterns and difficulty conceiving: a nested case-control study. <i>Fertility and Sterility</i> . 2011 Nov;96(5):1149-53. (クリティーク 松本)
	岩崎りほ	Helmich E, Derksen E, et al. Medical students' professional identity development in an early nursing attachment. <i>Medical Education</i> . 2010 Jul;44(7):674-82. (クリティーク 米澤)

---

10月15日	成瀬昂	Warshawsky NE, Havens DS, et al. The influence of interpersonal relationships on nurse managers' work engagement and proactive work behavior. <i>The Journal of Nursing Administration</i> . 2012 Sep;42(9):418-25. (クリティーク 伊藤)
	松永篤志	van Berkel J, Proper KI, et al. An exploratory study of associations of physical activity with mental health and work engagement.. <i>BMC Public Health</i> . 2013 Jun 7;13:558. (クリティーク 錦織)

---

10月22日	芦田沙矢香	Shepherd A, Cheyne H, et al. The purple line as a measure of labour progress: a longitudinal study. <i>BMC Pregnancy Childbirth</i> . 2010 Sep 16;10:54 (クリティーク 竹井)
	南谷真理子	修士論文進捗報告
	日下桃子	修士論文進捗報告

---

10月29日	蔭山正子	Evers KE, Paiva AL, Johnson JL, Cummins CO, Prochaska JO, Prochaska JM, Padula J, Results of a Transtheoretical Model-Based Alcohol, Tobacco and Other Drug Intervention in Middle Schools. <i>Addictive Behaviors</i> 2012 Sep;37(9):1009-18.. 2012 Apr 28. (クリティーク 山本)
	櫻井美里	修士論文進捗報告
	疋田直子	修士論文進捗報告

---

(2) 研究会

	日程	講師およびテーマ (敬称略)
第 201 回	2013 年 4 月 26 日	小林小百合 (東京工科大学医療保健学部看護学科高齢者看護学 講師) 「グループホームにおける認知症高齢者の「食」に関連したケア-ケア提供者の「食」に対する視点とケアのプロセス-」 横山由美先生 (自治医科大学看護学部小児看護学 准教授) 「乳幼児期のダウン症候群の子どもを持つ母親の“育ての場探し”」
第 202 回	5 月 17 日	グレッグ美鈴 (神戸市看護大学 基盤看護学領域 看護キャリア開発学分野 教授) 「看護職の職業的アイデンティティに関する質的研究」
第 203 回	6 月 14 日	小宮山恵美 (北区健康福祉部副参事) 「北区初の保健師管理職として～保健師の視点を持ちながらソーシャルキャピタルの種まきを」
第 204 回	7 月 26 日	石崎達郎 (東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究チーム 研究部長) 「医療・介護レセプトデータの分析」
第 205 回	9 月 13 日	渡井いずみ (名古屋大学大学院医学系研究科 看護学専攻地域／在宅看護領域 准教授) 「高齢出産女性のワークライフバランス」
第 206 回	10 月 16 日	白澤翔平 (東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 都市計画研究室 修士課程) 「地理情報システム (GIS : Geographic Information System) を使った地域分析の実際」 阪井万裕 (東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻地域看護学分野 博士課程) GIS を用いた学部実習報告 : 「地域を概観して～災害時の要援護者に対する避難支援対策を考える～」
第 207 回	11 月 29 日	岸 恵美子 (帝京大学医療技術学部看護学科 地域・公衆衛生看護学 教授) 「高齢者のセルフネグレクトの実態とその対策」
第 208 回	12 月 18 日	大森 彌 (東京大学名誉教授) 「地方自治体における政策形成と保健師の役割」

- 第 209 回 2014 年 藤江 康彦 (東京大学大学院教育学研究科 学校教育高度化専  
攻 教職開発コース 准教授)  
3 月 14 日 「専門家の熟達と生涯発達：教師を例として」
- 第 210 回 3 月 28 日 Soong-nang Jang (Associate professor, College of Nursing,  
Chung-Ang University)  
「Cohort trends of health status and long term care  
needs among Korean older population」
-

### (3) 研究プロジェクト

永田智子，辻哲夫，飯島勝矢，吉江悟，山本則子，五十嵐歩，石崎達郎，村山洋史，成瀬昂，岩本康志，両角良子，湯田道生。

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）。

レセプトデータを活用した療養場所移行とサービス利用の追跡調査に基づく効果的な地域連携体制の明確化。

成瀬昂，辻哲夫，飯島勝矢，吉江悟，永田智子，蔭山正子，岩本康志，両角良子，湯田道生。

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業）。

縦断的レセプトデータを用いた医療・介護サービス利用状況の地域間比較。

永田智子，鷺見尚己。

平成 23-25 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）。

退院支援における支援行為の抽出と再構成—患者特性に応じた支援方法の確立に向けて。

蔭山正子，横山恵子，大嶋巖。

平成 25-27 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）。

精神障害者家族ピア教育プログラムの波及効果とシステムの評価。

戸村ひかり，永田智子，清水準一。

平成 25-27 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）。

病院の退院支援システムを構築するためのモデルの開発と、有用性の検討。

村嶋幸代，佐伯和子，末永カツ子，田口敦子，永田智子，二宮一枝，赤星琴美，蔭山正子。

平成 25-27 年度科学研究費助成事業（挑戦的萌芽研究）。

修士課程における保健師教育の開発と評価—日本からの発信。

蔭山正子，嶋津多恵子，永田智子，田口敦子。

平成 25 年度公益法人三菱財団社会福祉事業研究助成金。

熟練保健所保健師の児童虐待対応に活かす精神保健相談技術の明確化。

蔭山正子，永田智子，横山恵子，中村由嘉子，キタ幸子，飯塚壽美，岡田久実子，佐藤美樹子。

平成 25 年度財団法人上廣倫理財団研究助成。

精神障がい者の母親が抱く持続的恐怖心とケア倫理—良好な家族関係の構築に向けて—。

岩崎りほ，日下部美智子，野口かおり，永田智子。

平成 25 年度公益財団法人木村看護教育振興財団看護研究助成金。2013 年 4 月-2014 年 9 月。

児童虐待予防における保健分野の保健師の専門的な役割の明確化。

岩崎りほ，永田智子。

平成 25 年度公益財団法人政策医療振興財団研究助成金。2013 年 4 月-2014 年 3 月。

行政保健師の職業的アイデンティティの確立プロセス。

櫻井美里，永田智子。

平成 25 年度公益財団法人政策医療振興財団研究助成金。2013 年 4 月-2014 年 3 月。

NICU に児が入院中で母児分離状態にある母親に対する行政保健師の認識と支援の実態。

阪井万裕，篠崎智広。

第 22 回（平成 25 年度）公益財団法人 ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成（国内共同研究—満 39 歳以下）。2013 年 12 月 1 日～2014 年 11 月 30 日。  
訪問看護師と訪問介護士との連携と、在宅終末期ケアの質評価。

阪井万裕，成瀬昂。

平成 25 年度公益財団法人医療科学研究所研究助成。2013 年 11 月 1 日～2014 年 10 月 31 日。

訪問看護師の職種内・職種間連携を促進する職場環境要因の明確化。

大方潤一郎，後藤純，永田智子，松永篤志，寺本千恵，森反章夫，大月敏雄，富安亮輔，牧野篤，小泉秀樹，似内遼一，新雅史，狩野徹，金井利之，井堀幹夫，後藤智香子，堤可奈子，西出和彦，廣瀬雄一，岡本和彦，瀬沼智洋，深井祐紘，朴晟源，井本佐保里，笈田幹弘，成瀬昂，蔭山正子，岩崎りほ，阪井万裕，櫻井美里，錦織梨紗，山本なつ紀，松本博成，ほか。

平成 23-26 年度独立行政法人科学技術振興機構，戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）。

研究開発プログラム「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」

研究開発プロジェクト「『仮設コミュニティ』で創る新しい高齢社会のデザイン」

#### (4) 教室内勉強会

教室内勉強会（2013年4月4日～2014年3月11日）

教室員の研究計画・活動を共有し、討議することを目的として行った。

参加者：永田，成瀬，蔭山，松永，岩崎，齋藤，阪井，寺本，櫻井，伊藤，錦織，  
山本

教科書：なし（配布資料のみ）

日程	担当者	内容
前期		
4月4日	(木) —	教室員自己紹介
4月10日	(水) 櫻井	修士論文研究計画
4月17日	(水) 永田	退院支援に関する研究他
4月24日	(水) 岩崎	博士論文研究計画
5月8日	(水) 松永	博士論文研究計画，大槌体操
5月15日	(水) 齋藤	博士論文研究について
5月22日	(水) 櫻井	修士論文研究計画
5月29日	(水) 蔭山	自身の研究について他
6月5日	(水) 阪井	博士課程研究テーマについて
6月12日	(水) 寺本	博士課程研究テーマについて
6月19日	(水) 成瀬	自身の研究について他
6月26日	(水) 錦織	研究テーマ相談
7月3日	(水) 山本	研究テーマ相談
7月10日	(水) 伊藤	研究テーマ相談
後期		
11月5日	(火) 齋藤 永田	修士論文計画 研究トピック
11月12日	(火) 蔭山 阪井	研究トピック 博士論文計画
11月19日	(火) Magilvy 先生	「Care fragmentation discovered through ethnography」
11月26日	(火) 伊藤 櫻井	研究計画 修士論文の進捗状況について
12月3日	(火) 錦織 岩崎	研究計画 博士論文の進捗状況について
12月10日	(火) 山本 松永	研究計画 博士論文の進捗状況について

12月17日	(火)	成瀬 櫻井	研究トピック 修士論文初稿会
1月28日	(火)	松本 櫻井	卒業論文発表予行 Journal & Critique
2月4日	(火)	齋藤 山本	博士論文進捗状況について 修士論文進捗状況について
2月18日	(火)	伊藤 山本	修士論文進捗状況について 修士論文進捗状況について
3月4日	(火)	山本 蔭山	Journal & Critique 研究トピック
3月11日	(火)	伊藤 阪井	Journal & Critique 博士論文進捗状況について

#### 質的研究勉強会 (2013年4月19日～2013年7月16日)

質的研究方法を用いた地域看護学分野の博士論文レベルの研究を行うための知識と分析方法、研究動向を学ぶことを目的としておこなった。

参加者：永田，成瀬，蔭山，岩崎（主催），松永，阪井，寺本，櫻井

教科書：なし（配布資料のみ）

日程	担当者	内容
4月19日	(金) 松永	「初期成人期にある日本人男性の同性愛アイデンティティの形成過程についての質的研究」他
5月17日	(金) 岩崎	「看護職の職業的アイデンティティの研究について」
6月18日	(火) 阪井	「終末期の過ごし方の意思決定における悪性グリオーマ患者・家族への看護方略」他
7月16日	(火) 寺本	「大都市に住む一人暮らし男性高齢者のセルフケアを確立するための課題 高層住宅地域と近郊農村地域間の質的分析」他

質的研究分析勉強会（2013年4月26日～2014年2月26日）

博士論文レベルの質的研究方法の理解を深めること、および、分析結果についてディスカッションを行い、その解釈を深めることを目的として行った。

参加者：蔭山，岩崎（主催），松永，渡邊（成人看護学分野）

教科書：なし（配布資料のみ）

日程	担当者	内容
4月26日（金）	渡邊	データ分析の相談
5月10日（金）	岩崎	データ分析の相談
6月5日（水）	阪井	データ分析の相談
7月19日（金）	渡邊・岩崎	データ分析の相談
8月13日（火）	渡邊・岩崎	データ分析の相談
9月13日（金）	蔭山・岩崎	データ分析の相談
10月18日（金）	渡邊・岩崎	データ分析の相談
11月20日（水）	松永	研究計画
	岩崎	データ分析の相談
12月27日（金）	岩崎	データ分析の相談
2月26日（水）	岩崎	データ分析の相談
	渡邊	Computer-Assisted Qualitative Data Analysis Software について

連携勉強会（2013年5月22日～2013年7月3日）

連携の概念整理、事例紹介、最新研究についてディスカッションを目的として行った。

参加者：永田，成瀬（主催），蔭山，岩崎，阪井，寺本，櫻井

教科書：なし（配布資料のみ）

日程	担当者	内容
5月22日（水）	成瀬	連携に関する周辺概念の整理、連携場面の事例を解析する枠組みの提案
6月19日（水）	成瀬	連携の定義、理論的枠組みに関するトピック・研究紹介
7月3日（水）	阪井	訪問看護師と訪問介護士の連携に関する研究紹介

## 4 教育活動

### (1) 学部講義

#### 1) 在宅看護論 3年後期 I (2単位)

担当：永田智子／成瀬昂／蔭山正子

期間：2013年10月17日～11月28日 木曜日 13:00～16:20

日程	講義題目	担当
10月17日 (木)	介護保険制度／ケアマネジメント	成瀬・永田
10月24日 (木)	ケアマネジメント (演習)	成瀬・永田
10月31日 (木)	訪問看護の仕組みと現状	角田
11月7日 (木)	病院から地域へ—退院支援	鈴木・永田
11月14日 (木)	地域包括ケア	永田
11月21日 (木)	終末期がん患者への訪問看護・在宅機器演習	角田
11月28日 (木)	在宅ケアシステム・介護予防	永田

講師 角田直枝 茨城県中央病院 茨城県地域がんセンター 看護局長  
鈴木樹美 東京大学医学部附属病院地域医療連携部 看護師長

#### 2) 在宅看護論 4年前期 I (2単位)

担当：永田智子／成瀬昂／蔭山正子

期間：2013年4月8日～5月15日 水曜日 8:40～12:00 (一部変更あり)

日程	講義題目	担当
4月8日 (月)	介護保険制度／ケアマネジメント	成瀬・永田
4月10日 (水)	ケアマネジメント (演習)	成瀬・永田
4月17日 (水)	在宅ケアシステム・介護予防	永田
4月22日 (月)	難病患者への地域看護活動	小西
4月24日 (水)	病院から地域へ—退院支援	鈴木・永田
5月8日 (水)	災害時の地域看護活動	永田
5月15日 (水)	重症心身障害児の訪問看護	東部訪問看護事業部

講師 鈴木樹美 東京大学医学部附属病院地域医療連携部  
小西かおる 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 総合保健看護学  
分野 総合ヘルスプロモーション科学講座 教授  
東部訪問看護事業部

3) 保健指導論 4年前期 I (2単位)

担当：永田智子／成瀬昂／蔭山正子

期間：2013年4月11日～5月16日 木曜日 13:00～16:20 (一部変更あり)

日程	講義題目	担当
4月11日 (木)	保健指導概論	永田・蔭山
	保健指導の方法：家庭訪問、健康診査 1	上野
4月15日 (月)	保健指導の方法：家庭訪問、健康診査 2	上野
	地域アセスメント	永田・成瀬・蔭山
4月18日 (木)	保健指導の方法：個別指導と集団指導の理論 と実際 1	五十嵐
4月25日 (木)	地域アセスメント (演習)	永田・成瀬・蔭山
5月9日 (木)	保健指導の方法：個別指導と集団指導の理論 と実際 2	五十嵐
5月16日 (木)	地域アセスメント (発表会)	永田・成瀬・蔭山

講師 上野昌江 大阪府立大学 地域看護学 教授

五十嵐千代 東京工科大学医療保健学部看護学科 地域看護学 准教授  
同大学 産業保健実践研究センター長

4) 生きることを支える科学：看護学の最先端

対象：駒場学生

期日：2013年6月20日

内容：だれもが適切な場で適切なケアを受けられるために  
—在宅ケアと退院支援— (永田)

5) 全学自由研究ゼミナール「ひとを元気にする科学」

対象：駒場学生

期間：2013年10月10日～12月19日

担当教員：永田、森、成瀬、玉井、吉田、蔭山、松崎、白石、五十嵐、竹原、鈴木、田中、齋藤、池田、飯坂 (担当順)

6) 健康総合科学概論

対象：健康総合科学科 2年生

期日：2014年1月15日

内容：地域看護学—個と集団を看護する— (永田)

## (2) 学部実習

### [2年生] 健康支援実習

期間 : 2013年10月7日(月)～11月18日(月) 月曜日(10/14,11/4 除く)

実習報告会 : 2013年11月18日(月)

実習施設 : 文京湯島高齢者在宅サービスセンター (4名)  
文京昭和高齢者在宅サービスセンター (2名)  
文京大塚高齢者在宅サービスセンター (4名)  
文京本郷高齢者在宅サービスセンター (4名)  
大田区地域包括支援センター入新井  
デイサービスだるま (4名)  
(3名)

### [4年生] 地域看護学実習

期間 : 2013年7月8日(月)～7月19日(金)

実習報告会 : 2013年7月22日(月)

実習施設 : 文京区保健サービスセンター (4名)  
文京区保健サービスセンター本郷支所 (3名)  
台東保健所 (4名)  
大田区地域包括支援センター入新井 (1名)

### [4年生] 在宅看護論実習

期間 : 2013年7月1日(月)～7月5日(金)

実習報告会 : 2013年7月5日(金)

実習施設 :

#### ①退院支援部署 (1日)

東京大学医学部附属病院・地域医療連携部 (6名)

三井記念病院・退院支援室 (5名)

#### ②訪問看護ステーション (3日)

訪問看護ステーションけせら (2名)

小石川医師会訪問看護ステーション (2名)

CoCo 訪問リハビリ・看護ステーション (1名)

龍岡訪問看護ステーション (1名)

西片あさひ訪問看護ステーション (1名)

浅草医師会立訪問看護ステーション (2名)

上野訪問看護ステーション (2名)

### (3) 大学院特論

#### 1) 地域看護学特論 I

責任教員： 永田智子

担当教員： 吉田亨 群馬大学医学部保健学科

日程： 2013年4月16日～7月12日 火曜日・金曜日

内容： 地域看護学の理論・実践・研究について修士レベルの教科書を用いながら学ぶとともに、地域看護活動の方法論の一つである地域組織活動の理論と応用を学ぶ。

主なテキスト：

Public health nursing 8<sup>th</sup> edition. Philadelphia: Elsevier's Health Sciences Rights Department in Philadelphia. 2012.

日程	講義題目	担当
4月16日 (火) 13:30~14:30	オリエンテーション, 打ち合わせ	永田
5月7日 (火) 13:30~16:30	文献輪読・討議 [9]Population-based public health nursing practice: the intervention wheel 発表課題説明 (PICO/PECO)	永田
5月21日 (火) 13:30~16:30	文献輪読・討議 [18]Community as client : assessment and analysis	永田
5月24日 (金) 16:40~19:50	地域における組織活動論 I (歴史と理論)	吉田
6月4日 (火) 13:30~16:30	文献輪読・討議 [22]Case management	永田
6月21日 (金) 16:40~19:50	地域における組織活動論 II (活動の実際)	吉田
7月2日 (火) 13:30~16:30	文献輪読・討議 参加者の関心のある章についてテキストの章・トピックを紹介	永田
7月12日 (金) 16:40~19:50	地域における組織活動論 III (ヘルスプロモーション)	吉田

## 2)地域看護学特論Ⅱ

責任教員：永田智子

担当教員：麻原きよみ 聖路加看護大学 地域看護学 教授  
岸恵美子 帝京大学医療技術学部看護学科 教授  
大森純子 聖路加看護大学 地域看護学 准教授  
田上豊 三菱総合研究所 人間・生活研究本部 主席研究員

日程： 2013年10月～11月 火曜日 水曜日 金曜日

内容： 地域看護学に関する研究の現状と課題について、特に在宅ケアを中心として学ぶ。また、地域看護学研究の方法論についても学ぶ。

日程	講義題目	担当
10月16日 (水) 13:30～16:30	エスノグラフィー	麻原
10月30日 (水) 13:30～16:30	Community-based Participatory Research	大森
11月5日 (火) 13:30～16:30	在宅ケアの歴史と展望	田上
11月13日 (水) 13:30～16:30	公衆衛生看護の倫理	麻原
11月19日 (火) 13:30～16:30	在宅ケアの社会経済的評価	田上
11月26日 (火) 13:30～16:30	地域ケアの評価	田上
11月29日 (金) 18:00～20:00	高齢者のセルフネグレクトの実態とその対策	岸

### (4) 卒業論文

松本博成 (指導教員：永田智子・成瀬昂) 学科奨励賞受賞

中年期成人の要介護状態を想定したときの転居意向とその関連要因

### (5) 修士論文

櫻井美里 (指導教員：永田智子)

行政保健師が新生児集中治療室に入院した児の母親に対して行う支援—入院中からの支援実施に関連する要因—

## 5 学内での活動

### (1) 委員会活動

永田智子

医学部健康総合科学科 教育委員	2007年4月～
医学部健康総合科学科 カリキュラム策定WG委員	2013年8月～
医学部カリキュラム改革WGメンバー	2014年1月～
医学図書館運営ワーキンググループ メンバー	2013年4月～
東京大学リーディング大学院プログラム 「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー 養成プログラム」 幹事	2013年10月～

成瀬昂

医学部健康総合科学科 進学生増ワーキング メンバー	2012年4月～
---------------------------	----------

### (2) 教室内での役割分担

抄読会・勉強会係	永田智子	成瀬昂	岩崎りほ	阪井万裕
	齋藤あや	伊藤翠	錦織梨紗	
研究会係	蔭山正子	寺本千恵	阪井万裕	山本なつ紀
	伊藤翠			
親睦会・PC係	成瀬昂	松永篤志	錦織梨紗	山本なつ紀

## 6 学会における活動

永田智子

### BioScience Trends

Editor	2008年1月～
日本地域看護学会	
理事	2009年8月～
査読委員	2009年8月～
編集委員会委員	2012年8月～
日本看護科学学会	
英文誌編集委員会委員	2010年1月～
日本在宅ケア学会	
評議員	2012年4月～
編集委員会委員	2012年4月～
日本民族衛生学会	
編集委員会委員	2012年1月～
日本公衆衛生看護学会	
理事	2012年7月～
査読委員	2013年6月～

蔭山正子

日本地域看護学会	
学術委員会委員	2013年4月～
日本公衆衛生看護学会	
査読委員	2013年4月～
看護理工学会	
第1回学術集会実行委員	2013年10月～

成瀬昂

看護理工学会	
第1回学術集会実行委員	2013年10月～

## 7 社会的活動

永田智子

東京都在宅療養推進会議退院支援検討部会  
委員

2013年5月～2014年3月

全国保健師教育機関協議会  
将来計画委員会 委員

2012年6月～

成瀬昂

東京都文京区  
介護保険認定審査会 委員

2010年4月～2014年3月

阪井万裕

東京都文京区  
介護保険認定審査会 委員

2013年4月～

## 8 教室日誌

2013年

4月3日 マレーシア理科大学医師・看護師との学術交流会

4月9日 ウェルカムランチ（研究室）

7月11日 夏の大掃除

7月23日 納涼会（本郷「ワインと地鶏 こだわりや」）

10月4日 イリノイ大学名誉教授 Mi Ja Kim 先生講演会

11月2日-6日 The 141st American Public Health Association Annual Meeting(APHA), the United States of America, Boston（参加：成瀬，阪井）

11月16日-21日 コロラド大学教授 Kathy Magilvy 先生 来日

12月10日 年末大掃除  
忘年会（上野「ウメ子の家 上野店」）

2014年

2月20日-21日 17th EAFONS, Philippines 櫻井

2月21日-22日 大槌町コミュニティ環境点検調査

3月1日-2日

3月13日 送別会（本郷「本三キッチンバル」）

3月17日,31日 年度末大掃除

3月20日 福井県ジェロントロジー研究報告会（参加：永田，成瀬，阪井，松本）

3月28日 韓国中央大学校准教授 Soong-nang Jang 先生講演会

## 9 教室員名簿(2013 年度)

准教授	永田智子			
非常勤講師	田上豊 錦戸典子	吉田亨 角田直枝	麻原きよみ 五十嵐千代	上野昌江
助教	成瀬昂 蔭山正子 飯坂真司 (老年看護学分野兼担)			
事務員	堀美奈子	山口千鶴子	竹田由美	
大学院生 (博士課程)	島村珠枝(休学中) 齋藤あや	阪井万裕	松永篤志 寺本千恵	岩崎りほ
大学院生 (修士課程)	櫻井美里 田川愛子(休学中)	伊藤翠	錦織梨紗	山本なつ紀
卒論生	松本博成			
客員研究員	秋山直美 小林小百合 服部真理子	有本梓 鷺見尚己 堀越直子	大島浩子 田口敦子 横山由美	栞原雄樹 戸村ひかり 吉岡京子
教室研究生	石川英里 堂本司 山居優子	大橋由基 馬場千恵 吉羽久美	鈴木樹美 廣田真由美	関根綾希子 柳瀬裕貴